

遠隔授業実施における留意点(教員向け)

2020年5月25日 コロナ対策情報処理システムチーム

遠隔授業(オンライン・オンデマンド)を行う上では、面接(対面)授業とは違った留意点があります。以下に標準的なものを挙げますが、具体的には授業の目的や教員の考え方、受講生の状況などによって異なります。以下を参考にしつつ、オリジナルな工夫を進めてください。また、学生の意見を聞くために、ぜひFD推進委員会実施の学生アンケートをご覧ください(5/15 宮前課長補佐からメールで配信)。

前提:

- ・必ずしも学生の受信環境はいいとは限らず、特にオンライン授業では、受信に問題がある学生が一定の割合でいる。
- ・スマホなどの小さな画面で受講している学生が2割程度いることにも留意する。
- ・遠隔授業では特に目が疲れやすく、聞き取りも容易でない。
- ・したがって、遠隔授業では集中力が持続しにくい。
- ・そもそも遠隔で授業が行われていること自体に、学生はストレスや不安を感じている。
- ・学生やその家族のプライバシーに配慮が必要。
- ・面接授業が苦手な学生が一定割合存在していて、遠隔授業では、自身の苦手なことに不安を感じることなく受講できているということも意識いただきたい。

事前準備:

- ・連絡を確実に。授業のはじまる1日前までには受講に必要な情報(資料の置き場所や遠隔会議システムのIDやパスワードなど)を学生に知らせる。旧科目の受講生も忘れずに。
- ・連絡は、Manaba folio と遠隔用の「授業科目一覧」を基本とし、必要に応じてそれを併用する。Manaba folio では学生が設定すれば必要な情報が電子メールで送られるので、学生がwebを見る負担も非常に軽減される。
- ・資料の配布も1日前までにおこなう。

スライド(学会発表に準じる):

- ・メイリオやゴシック系など読みやすく、十分大きなフォントを用いる(18pt以上を推奨)。
- ・1つのスライドには1つのメッセージにとどめる。
- ・文字数を減らす努力をする。補足はノート機能(配布資料)または口頭(オンライン・オンデマンド授業)で。
- ・聞き手が理解できる言葉で伝える。特に1回生は、はじめての大学での授業が遠隔であることに注意。

- ・すべてが黒一色は避けるが、色が多すぎるのも気が散る。1 スライドに使うのは5色まで。
- ・長時間の視聴となるため、配色にも疲れにくい工夫を施し、ユニバーサルデザインを意識した視覚資料を作成する。

(視覚的ユニバーサルデザインの参考情報)

<https://tsutawarudesign.com/tsutaeru.html> 伝わるデザイン

<http://www.pref.nara.jp/49765.htm> 奈良県カラーユニバーサルデザインガイド

資料:

- ・スライド作成での留意点と同様、ユニバーサルデザインを意識した字体や配色を工夫する。前述の“視覚的ユニバーサルの参考情報”を参照し、明朝体を使わず、ユニバーサルデザインフォントでの作成を心掛ける。
 - ※推奨 UD デジタル教科書体 (Windows 10 以降標準搭載)
- ・学生にとって過重にならないように資料の量を考える。資料の印刷のために、コンビニでコピーしている学生も多くいるため、必要な資料のみを届ける。
- ・白黒でも分かるように資料を作成する。

授業の実施全般(オンライン・オンデマンド授業に共通):

- ・初めに授業の目的などを明示する。
- ・はっきりとマイクに向かって話す。
- ・面接授業より情報は伝わりにくいので、一文は短くし、テンポや強弱にも注意する。
- ・要所所で、学生が内容を理解するための時間をとる。
- ・自身の姿を映す際には、表情やボディランゲージも意識する。できるだけ学生に顔を向けるようにして、表情や身振りはわかりやすく。
- ・画面の写りに注意。板書する際には大きな字で書き、聞き取れるように話す。
- ・折に触れて、授業のやり方について、学生の意見を聞いてみてください。

オンライン講義:

- ・学生の受講環境に特に注意。オンデマンド動画や資料を提供するなど、参加できなかった学生に対するケアを行う。
- ・学生のプライバシーに配慮する。お互い同士にも見えるため、画像やマイクをオンにする必要があるかを考え、学生には背景にも注意を促す。
- ・録画する際には、了解なしに学生の画像や音声を残さないようにする。
- ・授業中にチャットや挙手など、学生の参加を促す。学生間のディスカッションがあっても良い。
- ・途中で休憩を入れるなど、疲労防止にも配慮する。

課題:

- ・オンデマンド授業では必ず課す。オンライン授業で課しても、もちろん良い。
- ・他方で、学生はほぼすべての授業を遠隔で受講していることに注意し、学生にとって課題が過重にならないよう配慮する。
- ・オンライン掲示板の活用や、次回の授業で意見を紹介するなど、学生間が意見交換する機会を設ける。

遠隔授業受講における留意点(学生向け)

2020年5月25日 コロナ対策情報処理システムチーム

遠隔での授業が始まり、皆さんもストレスを感じられたり、もどかしい思いをされたりしていると思います。われわれ教職員も思いは同じです。対面での授業が少しずつ可能になってきていますが、遠隔での授業は当分続きそうです。以下に、遠隔授業を受ける際に、皆さんに注意していただきたい一般的なことを挙げます。それ以外の指示が各授業担当の教員からあるかもしれませんので、具体的には教員の指示に従ってください。

遠隔授業全般:

- ・授業のやり方は状況によって変わります。「本学学生のみなさんへ」のページをこまめにチェックしてください。 http://www.nara-wu.ac.jp/online_lec/corona_student.html
- ・教員には、授業のはじまる1日前までに受講に必要な情報(資料の置き場所や遠隔会議システムのIDやパスワードなど)を知らせるようにお願いしています。manaba folio や遠隔用の「授業科目一覧」だけでなく、必要に応じて Campusmate など他のサイトもチェックするようにしてください。
- ・授業の資料の入手や課題の提出ができない場合は、すみやかに教員に連絡してください。
- ・授業のためのURLやID、パスワードなどを他の人に教えてはいけません。
- ・授業の資料や内容をSNS等で公開することは絶対にやめてください。著作権法に違反する場合があります。
- ・受講者や教員の個人情報をSNS等で公開したり、外部に漏洩させたりしてはいけません。

オンライン(同時双方向型)授業:

- ・受信トラブルなどで参加できなかった場合は、教員に申し出てください。そのことで成績評価が不利になることはありません。
- ・お互いのプライバシーにも配慮しましょう。画像やマイクをオンにするかどうか、教員の指示をあおいでください。背景の映り込みや雑音にも注意しましょう。
- ・チャットや挙手、「反応」機能の使用などで、積極的に授業に参加しましょう。
- ・授業の様子を許可なく動画や静止画として自身のパソコン等に保存してはいけません。

私たち教職員も努力を重ねていますが、よりよい遠隔授業を行うためには、皆さんの積極的な参加が必要です。上記の点に留意して、教員や友達と一緒に、主体的に学ぶ場を作り上げましょう。